



県産農林水産物の輸出額

24年度大分県

農林水産物輸出20%増

57億円、9年連続最高

大分県が集計した2024年度の県産農林水産物の輸出額は計57億9300万円で、前年度に比べて9億7600万円(20%)増えた。9年連続で過去最高を更新。輸出額の大半を占める原木丸太、養殖ブリ、牛肉の3品目がいずれも伸びた。日本食人気に加え、円安も追い風となった。米国の高関税政策など不透明な情勢を踏まえ、販路の多角化にも努める。

最も伸びた品目は牛肉で、25%増の6億9900万円(110ト)。日本食の外食需要が拡大する台湾で、小売店と新たな取引が始まったことが要因とみられる。米国や香港でも堅調だった。

次いで伸び率が高かった原木丸太は24%増の24億7300万円(16万3千立方ト)。額は最も大きかった。主な輸出先の中国が、円安で他国産より価格が下がった日本産を選んだ。

養殖ブリは17%増の14億1300万円(1168ト)。東京電力福島第1原発の処理水海洋放出に伴う中国の規制の影響はあったものの、鮮魚を好む韓国、台湾を中心に出荷量は増えた。

製材品は中国向けの内装用材が不調で、6%減の3億3800万円(7600立方ト)。ナシは日田市産の「新高」が高温暖害で量が不足した一方、ほかの品種の取引が拡大したため1%減の6900万円(129・6ト)だった。

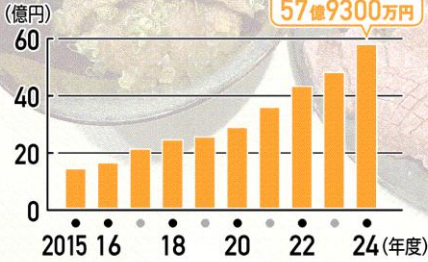
県は33年までに輸出額80億円を目標に掲げており、販路の拡大や開拓に一層力を入れる。

牛肉は欧州連合(EU)の厳しい基準を満たす出荷体制が整い、今年から欧州への輸出に取り組み。トランプ政権が高関税政策をとる米国については「現時点では輸出している牛肉や養殖ブリに大きな影響はない」(県農林水産部)が、先行きは見通しにくい。

おおいたブランド推進課は「海外情勢を見ながら、品目や各国のニーズに合わせ輸出先の多角化を進めていく」と話している。

(児屋野香純)

写真は台湾での試食会で提供したお肉と牛乳 昨年10月





〔問①〕 原木丸太の輸出額が伸びた要因を記事ではどのように説明していますか。

主な輸出先の中国が、円安で他国産より価格が下がった日本産を選んだため

〔問②〕 2024年度の大分県の農林水産物の輸出額の中で、原木丸太、養殖ブリ、牛肉の 3 品目の合計額は何%を占めますか。小数点以下を切り捨てた整数部分で教えてください。なお、金額は記事にある数字で計算しましょう

79.0%

〔問③〕 おいたブランド推進課は「輸出先の多角化を進めていく」と話しています。農林水産物の「輸出先の多角化」をするとどのようなメリット（利点）があると思いますか。県の目的も踏まえながら、あなたの考えを書いてみましょう。

※自由記述

（解答例 1） 輸出先を特定の国に頼ると、トランプ政権が高関税政策をとる米国のように、その国の政策の変更によって輸出額全体の増減に大きな影響を受けるリスクがあるから。

（解答例 2） 輸出先が増えることで販路の拡大や開拓につながり、輸出量や額の増加が期待でき、県内の生産者が潤うことにつながるから。